

平成 27 年 4 月 30 日

日本学習社会学会会員 皆様

第 12 回大会現地実行委員会  
実行委員長 玉 井 康 之

## 日本学習社会学会第 12 回大会（釧路大会）のご案内 および自由研究発表の募集のご案内

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、日本学習社会学会第 12 回大会を北海道教育大学釧路校でお引き受けすることとなり、平成 27 年 9 月 26 日（土）～9 月 27 日（日）に開催させて頂くことになりました。

北海道教育大学釧路校は、日本最東端の 4 年制大学で、教員養成大学としては最も小規模な大学です。また背後には、知床世界遺産・阿寒摩周国立公園・釧路湿原国立公園を有しており、自然豊かな中にある大学です。

また北海道は、開拓時代に行政自治体になかったために、開拓住民が地域に学校を建ててそれを尋常小学校として認可したという歴史があり、学校と地域社会が密接に結びついているところです。この地域性を背景にして、釧路市では、釧路市阿寒湖小学校のコミュニティスクールの指定を先頭に、市内全小中学校のコミュニティスクールの指定校を目指しています。

さらに釧路管内をはじめ、道東の学校はほとんどが小規模校で、小中併置校や複式学校も多くあります。そのため、異学年交流・小中連携教育・個に応じた一斉指導・間接指導による自律学習・地域カリキュラム開発・体験型学習活動など、アクティブ・ラーニングの理念を活かした指導方法がとられています。このへき地小規模校に多く見られる指導方法は、応用すれば、都会・市街地を含めた新しい時代の学習活動になる可能性を秘めています。

このような釧路地域の特性を踏まえながら、第 12 回大会では、シンポジウムテーマを「コミュニティと学校の相互発展と学習社会の構築」としました。公開シンポジウムでは、貝ノ瀬滋先生の基調提案「コミュニティスクールの今後の展望と可能性」をはじめ、佐藤晴雄先生・笹井宏益先生・阿寒湖小学校校長先生によるご報告を頂き、コミュニティスクールの可能性を論じたいと思います。

課題研究では、Ⅰ「コミュニティを培う図書館活動」と、Ⅱ「地域におけるアクティブ・ラーニングを通じた学生の成長-教員養成におけるへき地教育プログラムのケース・スタディ」の二つを予定しています。

懇親会では、北海道の漁師直送で、ホタテ・ホッキ・シャケ・サンマ・カキ等の旬の“海の幸”を中心に素材の味を提供させて頂く予定です。

今大会開催地は最東端であるため、報告者・参加者の大幅減少が予想されます。学会大会は会員の方々の積極的なご参加の上に成り立つものですので、遠方ではありますが、多くの会員の方々から自由研究発表やご参加の申し込みを頂ければ幸いです。大会実行委員会一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## I. 大会のご案内

### (1) 大会期間と会場

期間 2015年9月26日(土)・27日(日)

会場 北海道教育大学釧路校(〒085-8580 北海道釧路市城 1-15-55)

### (2) 日程 (一部変更の可能性もあります)

各種委員会・理事会	
9月26日(土) 会場：北海道教育大学釧路校講義棟	
10:00～11:00	年報編集委員会 研究推進委員会 国際交流委員会
11:00～12:30	全国理事会
学会大会1日目	
9月26日(土) 会場：北海道教育大学釧路校講義棟	
12:30～	大会受付・学会受付
13:00～14:30	自由研究発表 (休憩)
14:40～17:20	公開シンポジウム「コミュニティと学校の相互発展 と学習社会の構築」 基調提案:貝ノ瀬滋 「コミュニティスクールの今後の展望と可能性」 (休憩)
17:30～18:20	総会 (休憩)
18:30～20:30	情報交換会(懇親会)
学会大会2日目	
9月27日(日) 会場：北海道教育大学釧路校講義棟	
8:30～	大会受付・学会受付
9:00～11:30	自由研究発表
11:30～12:30	昼食休憩
12:30～14:30	課題研究Ⅰ「コミュニティを培う図書館活動」 課題研究Ⅱ「地域におけるアクティブ・ラーニング を通じた学生の成長-教員養成におけるへき地教育 プログラムの意義と展望」

### (3) 後援

北海道教育大学釧路校 北海道教育委員会釧路教育局 釧路市教育委員会  
釧路市校長会 釧路管内校長会 釧路管内へき地複式教育研究連盟

### (4) プログラムの送付

8月上旬にお送りする予定です。併せて、大会参加申込はがき等を同封致します。  
遠隔地のため、特割・早割・宿泊パック等の安いチケットを早めに予約して頂けると幸いです。

### (5) 参加費用

一般会員大会参加費 2,000 円 (正会員・臨時会員)

院生・学生会員大会参加費 1,000 円 (院生・学生)

※公開シンポジウムのみの参加は無料です。ぜひ、引き続き、学会大会にもご参加下さい。

情報交換会 (懇親会) 参加費 4,000 円 (正会員・学生会員)

### (6) 大会参加申込

大会参加申込については、後日、大会プログラムをお送りする際に、申込はがき (兼・総会委任状) を同封いたします。必要事項をご記入の上、大会準備委員会までお送りください。同時に、情報交換会 (懇親会) 参加予定、等も承ります。

### (7) 会場への交通機関および宿泊など

・会場までは、釧路空港到着時間から北海道教育大学釧路校まで、トータルに1時間30分ほどみておいて下さい。釧路空港リムジンバスで空港から釧路駅まで約50分、釧路駅から釧路校までタクシー等で15分です。JR釧路駅からはタクシーが便利で、15分 (約2.1km・750円) ほどかかります。

・道外から釧路に来られる飛行機は、東京羽田空港-釧路空港の直行便か、道外-千歳空港-釧路空港の乗り換え便になります。千歳-釧路のJRは、4時間かかります。ご不便をおかけしますが、釧路への直行便は、羽田のみとなります。

・宿泊に関する斡旋・予約の仲介等は致しませんが、ホテルは、別紙の通りです。大変恐縮ですが、パックツアーなど各自でご手配をお願いいたします。釧路駅か大学の近くが便利かと思えます。

北海道教育大学釧路校のホームページの「アクセスガイド」をご覧ください。

[http://www.kus.hokkyodai.ac.jp/accessguide/accessguide\\_koutsu.html](http://www.kus.hokkyodai.ac.jp/accessguide/accessguide_koutsu.html)

観光については、釧路観光コンベンション協会のホームページをご覧ください。

<http://www.kushiro-kankou.or.jp/kta/guidemap.html>

阿寒湖・摩周湖・知床などへの移動は、観光バスの他、レンタカーが便利です。

## (8) 貝ノ瀬滋先生のコミュニティスクールに関する講演会(9/26日 9:30～11:30)

日本学習社会学会の公開シンポジウムに先立って、9月26日(土) 9:30～11:30まで、同じく日本学習社会学会会場の釧路校において、貝ノ瀬滋先生の講演「コミュニティスクールの推進方法～三鷹市の実践から学ぶもの～」があります。一般講演会ですので、日本学習社会学会の会員の方も参加できます。

日時:9月26日(土) 9:30～11:30

場所:北海道教育大学釧路校 403 教室

講師:貝ノ瀬滋

演題:「コミュニティスクールの推進方法-三鷹市の実践から学ぶもの」

## II. 公開シンポジウムの内容および趣旨(9/26日 14:40～17:20)

### 「コミュニティと学校の相互発展と学習社会の構築」

#### 1. 基調提案

##### ○「コミュニティスクールの今後の展望と可能性」

貝ノ瀬滋(政策研究大学院大学・教育再生実行会議委員)

#### 2. 報告

##### ○「コミュニティスクール構想の全国的動向と可能性」

佐藤晴雄(日本大学)

##### ○「文教政策におけるコミュニティスクール推進方策と教育改革の課題」

笹井宏益(国立教育政策研究所)

##### ○「阿寒の地域資源・人材を活かしたコミュニティスクールとカリキュラムづくり」

谷口久士(阿寒湖小学校校長)

※校長人事異動のため、会報でお知らせした報告者が交代しました。

コメンテーター 貝ノ瀬滋(政策研究大学院大学/教育再生実行会議委員)

司会 廣瀬隆人(北海道教育大学釧路校)

学校教育も閉鎖的であると言われた時代から、すでに地域と連携しながら開かれた学校運営を行うようになってきている。学校は様々な保護者・地域住民に関わってもらいながら教育活動を広げているし、地域も学校に関わってもらいながらまちづくりを進めている。子どもは、学校の中だけで育つわけではなく、家庭・地域を含めたあらゆる場面で育っており、そのため学校・家庭・地域が連携して多様な教育活動を施すことが重要である。学校・家庭・地域が連携する目的も、最終的には子どもの多面的な発達を保障するためである。

さらに一歩踏み込んだ学校と地域の連携協力体制を構築するコミュニティスク

ールも、学校教育活動の多様化と深化をもたらし、地域素材のカリキュラム化、地域の自然体験・社会体験学習の導入、生活指導の充実化、地域ぐるみの道徳活動の推進、など学校教育の内容を発展させている。また地域も学校を媒介にして、地域行事と学校行事の一体化、まちづくり総合学習との連携、学校との連携による地域団体の活性化など、学校と関わることでまちづくりの条件ともなっている。

地域と結びついた学校では、学校の教師が職務とは関係なく日常的に地域住民と連携している。教師が地域住民と連携している様子を鑑みると、地域と連携したコミュニティスクールの発展のためには、地域と連携できる教師の育成が不可欠である。地域と連携できる担い手教師の育成のためには、その教師教育プログラムの構築も重要な課題となる。

学校と地域の連携がますます重要な課題となっている中で、本年度の公開シンポジウムでは、全国的なコミュニティスクールの動向や文科省の政策的な課題をとらえる。そして、地域と連携したカリキュラムを発展させているコミュニティスクール指定校の学校カリキュラムのあり方を具体的にとらえる。そして最後に、地域に定着し地域と連携できる担い手教師の育成をどのように図っていくかをとらえていきたい。

### Ⅲ. 課題研究Ⅰ・Ⅱ

#### (1) 課題研究Ⅰ：コミュニティを培う図書館活動

公共図書館を単に図書の貸し出しや読書の拠点とするのではなく、コミュニティ形成やまちづくりの重要な要素としてとらえ、これからの学習社会においてどのような役割が可能であるかを探る。報告1は首都圏の大都市、報告3は地方地域の町村という対照的な立場からの報告が期待される。報告2は「子ども」の成長支援という観点からの報告である。三つの報告から、都市・地方、大人・子どもという視点が複合的に交じりあうことによって、これからの図書館の可能性を展望できると考えている。

報告1：コミュニティを育む読書活動と図書館の課題

坪内一（神奈川県横浜市元中央図書館）

報告2：子どもからみた図書館活動の意義

坂内夏子（早稲田大学）

報告3：移動図書館バスによる地域巡回サービスと読書推進活動

-まちづくりとの連携の観点から

岸田純一（北海道標茶町立図書館）

討論者：藤野真一郎（北海道恵庭市元市立図書館）

司会：若園雄志郎（宇都宮大学）

#### (2) 課題研究Ⅱ：地域におけるアクティブ・ラーニングを通じた学生の成長

～教員養成におけるへき地教育プログラムの意義と展望～

北海道教育大学釧路校が取り組んでいるへき地教育プログラムをケースにとり、そのプログラムの体系的な内容と教育効果をトータルにとらえると共に、学生や学校・地域からの評価をとらえる。

元々へき地教育は極めてネガティブなイメージを持つが、へき地小規模校に赴き、その積極面をとらえ直すことで、パラダイムの転換を図る可能性をとらえる。また極めて地域性の高いへき地教育プログラムが、教育的な認識を広げ、市街地の教育のあり方を再考させる上でも有効であることをとらえる。これらをもとに、これからのアクティブ・ラーニングの可能性や大学と地域との関係を展望する。

報告1：へき地教育プログラムの全体構造と目指す教育効果

川前あゆみ（北海道教育大学釧路校）

報告2：学校・教育委員会側からみたへき地教育実習の評価

板谷 聖一（北海道白糠町教育長）

報告3：へき地教育実習から学んだことの広がり-へき地教育実習経験者の立場から

亀淵美里（北海道教育大学釧路校院生）

司会：玉井康之（北海道教育大学釧路校）

#### IV. 自由研究発表の申込

##### (1) 発表の申込について 2015/7/12(日) (必着)

今回の大会は、釧路という遠方のために、発表者ならびに参加者も減少することが予想されます。皆様の積極的な研究発表のご報告を期待申し上げます。どうぞよろしく御願い致します。

大会準備委員会玉井宛に、7月12日(日) (必着) までに、下記 E-Mail でお申し込みください。発表申し込みの際に、発表申込者の氏名・所属、連絡先、発表題目、発表の際に必要な機器を記載ください。液晶プロジェクターは、教室に備え付けられています。なお、発表申し込み後、所属・住所等が変更になられた場合には、速やかにご連絡ください。

※会員以外は発表者にはなれません。これは、共同研究の口頭発表者（○がつかない場合）も例外ではありません。未入会の発表希望者は、日本学習社会学会事務局に入会をお申込みください。入会手続きは7月12日(日)までに完了してください。詳細は、日本学習社会学会 HP をご覧ください。また、共同研究発表者を含め、2014年度までの会費を納入していることが必要となります。

また発表申込者には、大会実行委員会より申込受付の返信メールをお送りします。

送付先

〒085-8580 北海道釧路市城山1-15-55 北海道教育大学釧路校  
日本学習社会学会第12回大会実行委員会 玉井康之宛  
Tel : 0154-44-3385 (玉井研究室) 0154-44-3210 (玉井キャンパス長室)  
090-4875-3870 (玉井携帯電話)  
E-mail : [tamai.yasuyuki@k.hokkyodai.ac.jp](mailto:tamai.yasuyuki@k.hokkyodai.ac.jp) (大学メール)  
[tamaiyasuyuki@icloud.com](mailto:tamaiyasuyuki@icloud.com) (iPhone)

## (2) 自由研究発表の発表時間

発表時間は以下の通りです。

個人発表 20分 質疑応答 5分  
共同発表 30分 質疑応答 10分

## (3) 発表要旨集録の原稿作成について 2015年8月30日(日) (必着)

自由研究発表を申し込まれた会員は、発表要旨原稿作成要項にしたがって原稿を作成し、E-Mail (添付ファイル、word)で、大会実行委員会玉井康之宛に提出してください。

要旨原稿の提出締切は、2015年8月30日(日) (必着)です。

### 【発表要旨原稿作成要項】

- (1)原稿締切 2015年8月30日(日) 必着
- (2)原稿サイズ A4 縦長 横書き
- (3)ページ設定 文字数 40文字、行数 40行  
余白 上下左右ともに 25mm
- (4)ページ数 個人発表 2頁以内 共同発表 4頁以内  
・1頁目の7行目までに発表題目、氏名・所属と、キーワードを記載し、本文は8行目から記載して下さい。  
・名前の後に、いくつかのキーワードを入れて下さい。  
例 キーワード:地域教育・コミュニティスクール・地域学校運営・地域づくり

(5)フォント等 基本的には、提出者の原稿のまま印刷する予定です。

- ①発表題目： 主題・副題ともに : ゴシック 12pt 中央揃え
- ②発表者名 (所属) : ゴシック 12pt 右寄せ
- ③キーワード : ゴシック 12pt 左寄せ
- ④本文小見出し : 明朝体 12pt (太文字)
- ⑤本文 : 明朝体 12pt (標準)

### (6)留意事項

- ①発表要旨原稿には、脚注等の機能を使用しないでください。
- ②発表要旨原稿電子 file は、Mac コンピュータのため一太郎が読み込めない  
ので、申し訳ありませんが、一太郎ではなく、WORDで御願います。

## V. 発表当日の留意事項

- ①発表用配布資料は、発表者が事前にご自分で複写の上、会場にご持参願います。発表資料の事前送付（郵送・宅急便など）は、遠方のため届くのが遅く、また金曜日午後と土日が配達されないために、事前に届かない可能性があります。
- ②発表部会の参加者数に対して資料の不足が生じないようにご注意ください。発表資料は、各自 70 部を目安にご用意いただき、大会当日、事前に資料配布机において頂く形で配布させていただきます。したがって、発表直前に大会要員が配布するという形ではありませんので、ご容赦願います。  
なお、参加者が資料だけ持っていく場合もありますが、それについても多くの方に研究成果を見ていただくという意味で、良いことであると考えます。したがって、そのことも念頭において、発表当日の資料の準備を御願い致します。なお、申し訳ありませんが、大会準備委員会では資料増刷に応じられませんので、十分にご注意願います。
- ③当日、パソコンを使用される方は、以下の点にご注意ください。  
パソコンを使用される会場には、プロジェクターならびに windows vista または windows XP の発表者用パソコンを用意します。ご自身のパソコンを持ち込まれてもかまいません。Power Point による確実な投影を望まれる方は、データを Power Point 97-2003 形式に変換したものをご持参ください。  
また、会場設置のパソコンではデータの編集作業はできません。